

# オフシーズンの農業機械セルフメンテナンス

JA全農長野農業機械整備センター

本格的な農作業シーズンを迎えたときに機械の性能を最大限に発揮し、安全な状態で使用するために、オフシーズンのセルフメンテナンスを推奨したい。

故障時の修理ではなく、日常のメンテナンスを行うことで、作業中のトラブルによる機会損失を回避し、農作業事故の予防にも繋がる。

農業機械は「使用時間」「経過年数」「管理状況」により劣化が進む。前回の使用時には快調であっても、次に使用をする際に不具合が発生していることもある。また、風雨をしのぐための倉庫に保管した際にも、バッテリーの放電によりエンジンがかからない等の事象が発生する。

今回は果樹の管理に欠かせない「スピードスプレー」と、「刈払機」のメンテナンスについて一例を紹介する

## 点検・整備にあたって

- ・自身で点検・整備を行うときは、周囲の安全を確認し、平坦な場所で行うこと。
- ・点検作業を行うときは、必ずエンジンが停止していることを確認すること。
- ・複数人で作業する際は、エンジンや機械部の始動時に合図をすること。

### ◆スピードスプレー

スピードスプレーの稼働は、基本防除で年間約15回とされている。短時間で使用頻度が高い機械のため、定期的なメンテナンスの実施とあわせて、プロの手による定期的な格納点検を検討したい。

#### (1) シーズン終了後のセルフメンテナンス (例)

- ・清水を薬液タンクに入れ、噴霧ポンプを低速で運転させてタンク、配管、噴霧ノズルなどに循環させる。
- ・排水して薬液タンクを空にする。
- ・タンクが空になったら噴霧ポンプを低回転のエンジン回転速度で運転し、各散布コックを開放してホース内の薬液を完全に排出させる。

注) 長時間の噴霧ポンプの空回しは避ける(運転時間の目安は1分以内)。

- ・薬液タンクと散布コックは開放状態とする。(タンク内を空にして乾燥させる)
- ・車体を洗車し、水分を十分に拭き取る。
- ・燃料タンクは燃料を満タンにする。(結露防止)
- ・バッテリーは車体から取り外し風通しのよい冷暗所に保管する。車体につけておく場合はケーブルの【-】側を取り外しておく。
- ・直射日光や風雨を避けた場所で保管する。

#### (2) シーズン終了後の格納点検整備

スピードスプレー点検整備については、セルフメンテナンスのみでは網羅できない箇所がある。1年間の防除が終了した後は、プロの整備士によるチェックを受け、消耗品の交換と併せてオイル交換やグリスアップを行いたい。

### ◆刈払機

刈払機は、草刈りシーズン中に酷使される事が多く、高回転・高出力型のエンジンが主体である。また、刃物が回転する機械のため危険を伴う。

十分な点検・整備が機械の故障を防ぐだけでなく、農作業事故の防止にも繋がる。

刈払機のメンテナンスは毎使用後に行いたい、シーズンオフの長期格納時の一般的なメンテナンスについて紹介したい。

- ・刈刃にひび割れやチップの欠損有無を点検する。  
→異常や複数のチップ欠損の場合は交換。(写真1)
- ・グリスが減少している場合は、ギヤケースの所定の注入口よりグリスアップする。(写真2)
- ・エアクリーナーがゴミ等で汚れている場合は除去し、油汚れや傷みがひどい場合は交換する。(写真3)
- ・点火プラグが正常に燃焼していれば茶色である。中心電極が摩耗していれば交換する。(写真4)
- ・燃料タンクから燃料を抜き、キャブレター内の燃料は停止するまで運転して空にする。

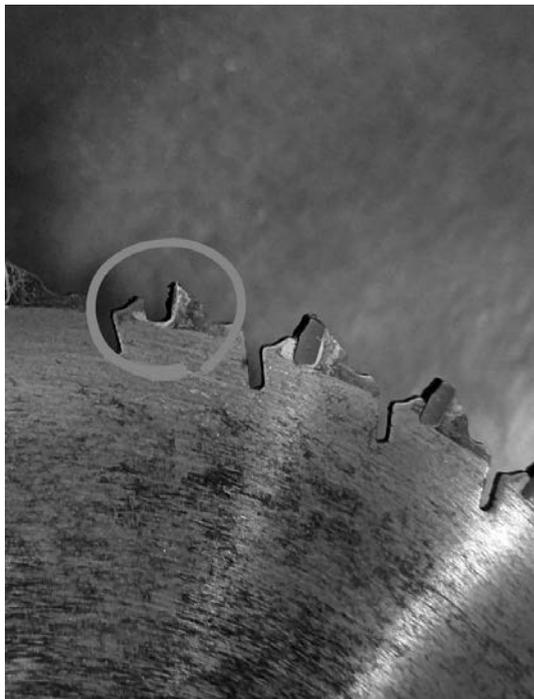


写真1

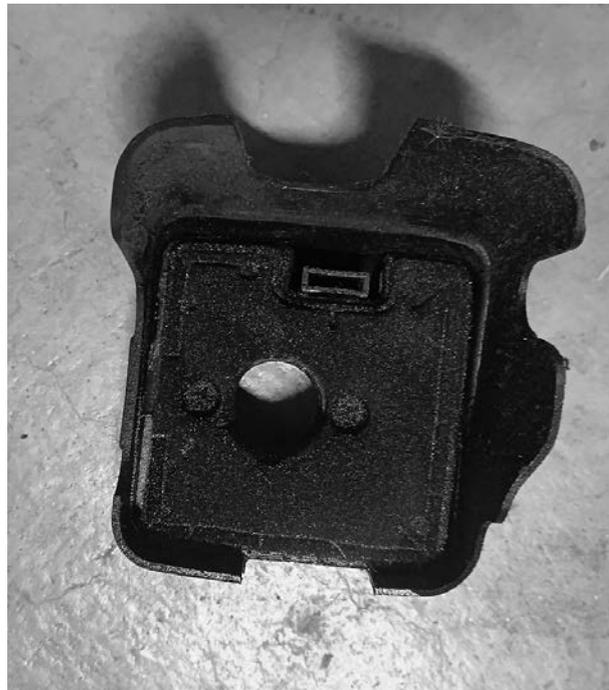


写真3



写真2



写真4

・ほこりや湿気の少ない乾燥した直射日光の当たらない場所で保管する。

### 最後に

セルフメンテナンスによる不具合個所の早期発見は、大きなトラブルを回避できる可能性があり、コスト面でもメリットがあることから、農業経営の上でも重要であるといえる。

また、一部の大型トラクターを除き、基本的に小型特殊自動車とされる農業機械は車検の必要がない。このため、ユーザー自身が意識的にメンテナンスや機械の状態をチェックする必要がある。

点検・整備の方法は、取扱説明書に基づいて実施し、自身で対処できない修理・点検は最寄りのJA農機センターにご相談いただきたい。

(センター長 麻田 秀幸)